

ちばの食育推進の指標と目標値

指標項目	現状値 (年度)	目標値 (目標年度)	出典
○食育推進の総合的な指標			
◇食育に関心のある県民の割合の増加	76.2% (H18)	90%以上 (H22)	①
◇朝食を欠食する県民の割合の減少 (小学5年生)	2.9% (H19)	0%を目指す (H22)	④
◇" " (中学2年生)	7.0% (H19)	0%を目指す (H22)	④
◇" " (15~19歳:男子)	22.7% (H17)	0%を目指す (H24)	②
◇" " (15~19歳:女子)	4.2% (H17)	0%を目指す (H24)	②
◇" " (20歳代男子)	44.8% (H17)	15%以下 (H24)	②
◇" " (20歳代女子)	31.3% (H17)	15%以下 (H24)	②
◇" " (30歳代男子)	37.3% (H17)	15%以下 (H24)	②
◇" " (30歳代女子)	23.3% (H17)	15%以下 (H24)	②
◇食育に関する活動や行動を実践している県民の割合の増加	43.9% (H18)	60%以上 (H22)	①
◇毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めている県民の割合の増加	86.1% (H19)	90%以上 (H22)	①
◇家族や友人と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている県民の割合の増加	73.6% (H19)	90%以上 (H22)	①
◇市町村食育推進計画を作成・実施している又は作成中の市町村の増加	4市町村 (H20.8)	全市町村を 目指す(H22)	
○学校・保育所等における食育の充実			
◇食に関する指導全体計画を作成している学校の割合の増加(公立小学校・中学校・特別支援学校・定時制高等学校)	39.7% (H18)	60%以上 (H22)	④
◇「いきいきちばっ子」学習ノートを授業に活用している小学校の割合の増加	86.4% (H18)	100% (H22)	④
◇学校給食における県産物の使用割合の増加(食材数ベース)	23% (H17)	全国上位を 目指す (H22)	③
◇学校給食における主要な県産農産物の使用割合の増加(重量ベース)	86.7% (H18)	増加 (H22)	④
◇完全給食を実施している公立学校における1週間あたりの米飯給食実施回数の増加(公立小学校・中学校・特別支援学校・夜間定時制 高等学校)	週平均 3.2回 (H18)	全国トップレベル の週平均実施回 数を 目指す (H22)	④
◇地域、家庭、学校が連携して子どもを育てているという環境が整っているという肯定的に回答する保護者や地域住民の割合	80.4%(H19)	増加 (H22)	
◇近隣の学校や地域の保健センター、公民館等との食に関する連絡協議会等がある割合の増加	15.8% (H18)	30%以上 (H22)	④
◇小学生の肥満傾向児の割合の減少	8.7% (H19)	8.5%以下 (H22)	⑦
◇食育の計画づくりに取り組んでいる保育所の割合の増加	77.9%(H18)	90%以上 (H22)	
○食を選択できる力の養成			
◇食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている県民の割合の増加	64.9% (H18)	70%以上 (H22)	①
◇外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする者の割合を増加	52.8%(H19)	60%以上 (H24)	⑤

指標項目	現状値 (年度)	目標値 (目標年度)	出典
○生産者と消費者、都市と農村の交流			
◇教育ファームの取組がなされている市町村の割合の増加(市町村、学校、農林漁業者等の様々な主体のうち、2つ以上の主体が教育ファームに取り組む市町村)	45% (H18)	60%以上 (H22)	
◇観光農林漁業入込数	389万人(H18)	400万人 (H22)	⑥
○地域の伝統的な食文化の理解と食習慣の伝承			
◇郷土料理や伝統食について「知っているものがある」、「食べたことがある」県民の割合の増加	60.0% (H19)	80%以上 (H22)	①
○千産千消の推進			
◇「千葉県産農産物」を購入したいと思う県民の割合の増加	78.1%(H19)	80%(H20) さらに増加(H22)	①
○環境への配慮			
◇ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている県民の割合の増加	76.9% (H18)	増加 (H22)	①
◇食べ残しを減らす努力をしている県民の割合の増加	88.3% (H19)	増加 (H22)	①
○健康づくりの推進			
◇内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)を認知している県民の割合の増加	内容を知っている 76.6%(H19)	内容を知っている 80%以上(H24)	⑤
◇自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思う県民の割合の増加	47.8%(H19)	増加 (H22)	①
◇自分や家族の健康について満足していると思う県民の割合の増加	51.1%(H19)	増加 (H22)	①
◇「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考に食生活を送っている県民の割合の増加	37.0% (H18)	60%以上 (H22)	①
◇栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気をつけている県民の割合の増加	82.5% (H19)	90%以上 (H22)	①
◇自分の食生活に問題があると思う者のうち、改善意欲のある者の割合の増加	成人男性 74.7% 成人女性 85.6% (H19)	成人男性 85%以上 成人女性 87%以上 (H22)	⑤
◇「日頃から日常生活の中で、健康の維持・推進のために意識的に体を動かすなどの運動をしている人」の増加	成人男性 64.2% 成人女性 61.0%(H19)	男女ともに 74%以上 (H22)	⑤
◇自らも料理に取り組んでいる県民の割合の増加	70.1%(H19)	増加 (H22)	①
◇健康ちば協力店数の増加	851店 (H20.3)	1,200店 (H22)	
○食育推進運動の展開			
◇食育の推進に関わるボランティアの数の増加	5,081名 (H19)	増加 (H22)	
◇ちば食育ボランティアの活動報告数の増加	633件 (H18)	20%増 (H22)	
◇食育推進にかかわるボランティア活動への参加意欲のある県民の割合の増加	40.1% (H19)	45%以上 (H22)	①

出典

- ① 県政に関する世論調査
- ② 千葉県健康・栄養調査
- ③ 学校給食栄養報告
- ④ 学校給食基本調査

- ⑤ 千葉県生活習慣に関するアンケート調査
- ⑥ 観光入込調査
- ⑦ 定期健康診断の統計
- 空欄: 関係課の独自調査等による